

広島県立総合技術研究所畜産技術センター育種繁殖研究部 森本和秀氏

前号に引き続き、牛白血病の情報を提供します。

病勢の進行と生乳生産の関係

Y. Daら(1993)は、アメリカ、イリノイ大学の乳牛 204 頭の泌乳成績を 6 年以上にわたり調査しました。

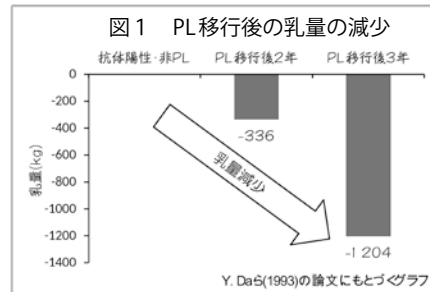
BLV 抗体検査を行い、抗体陰性牛、抗体陽性・非 PL 牛、抗体陽性・PL 牛に分類して追跡調査した結果、抗体陽性・PL 牛は抗体陽性・非 PL 牛に比べて生乳生産量が減少したと報告しました。減少幅は、PL に移行して 2 年後に 336kg/年、3 年後に 1,204kg/年と報告しています。

〔生乳生産減少による損失額の試算〕

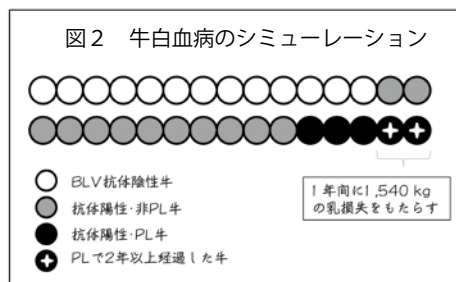
搾乳牛 30 頭の酪農家を例にして、Y. Daらの論文情報をもとに年間の損失額を試算しました。中国地方の乳牛の抗体陽性率が 56.5%という村上賢二(2013)の報告をもとに、30 頭中 17 頭が感染牛と仮定します。さらに 17 頭中 30%にあたる 5 頭が PL の病態にあると仮定し、そのうち 1 頭は PL に移行して 2 年、別の 1 頭は 3 年が経過していたと仮定すると、年間の乳損失量は $336 + 1,204 = 1,540\text{kg}$ となります。乳価を 105 円/kg として計算すると、損失額は $1,540 \times 105 = 161,700$ 円と試算されます。

乳代だけの損失額ですので、わずかな額に思えるかもしれませんが、乳量が減少すれば廃用が予定より早まるかもしれません。また、病態が進んで病気にかけやすくなれば治療費もかかると予想されます。さらに、他の牛への感染源にもなる可能性があります。牛白血病感染が酪農経営に及ぼす影響をよくよく検討してみる必要があるでしょう。

牛白血病は、感染していても無症状のことが多いので、気づかないうちに徐々に乳量が減り、損失を出している恐れがあります。また、感染牛を放置すれば牛から牛へ感染が広がる恐れがありますので、感染牛が見つかった際は、早めに清浄化に取り組むことをお勧めします。



※ PL とは、持続性リンパ球増多症



おいしい酪農経営!!

ネパールの酪農と酪農組合

第 18 回

全国酪農業協同組合連合会 購買部酪農生産指導室課長 丹戸靖氏

世界の酪農に関する話題を続けています。そろそろ飽きてきたという声も聞こえてきそうですが、今回を含めてあと 3 回続編を予定しておりますのでご覚悟願います！

今月はネパールです。ネパールの酪農家の話を聞く機会があったので、その要旨をお伝えします。

ネパールで生産されている生乳の多くが自家消費、または飲食店や食品雑貨店への直接販売で占められています。乳業メーカーや酪農協へ出荷されるのは総生産量の 15% 程度しかありません。酪農家戸数や生乳生産量に関する正式なデータは存在しませんが、バッファローから搾乳される生乳の方が多く、生産乳量は 2～3kg/日・頭です。

ネパール国内には、32,663 組合の協同組合が組織されていますが、約 40% が金融事業を行う組合、約 28% が農業協同組合、約 5% が酪農組合となっています。酪農組合は地域農協が 481 組合、地域連合会

が 36 組合、中央団体が 1 組合の構成です。

現在、運営されている酪農組合の課題は、①交渉力が弱いこと、②事業が集乳と乳代の支払いに限定されており、技術支援等の事業を行っていないこと、③乳代の支払いに遅延があることを挙げていました。

酪農経営者の課題としては、①繁殖記録が無いこと、②多くの乳用牛は労役牛であること、③酪農家が収支計算をしていないこと、とのことです。

ネパールの酪農乳業において追い風となっているのは、乳製品市場が拡大しており、しかも海外製品が定着しておらず、国内製品の普及余地が高いこと。そして酪農自体が「良い仕事(儲かる仕事)」として、認められつつあるのは、産業として希望の光となっているそうです。目をきらきらさせて話をしている姿が印象的でした。

来月以降は欧州に話を戻します。